

## 動物園における高病原性鳥インフルエンザ発生時の シミュレーション訓練

阿部 勝彦（広島市安佐動物公園）

ヒトの世界では COVID-19（新型コロナウイルス感染症）が猛威を振るい大変な状況が続いていますが、HPAI（高病原性鳥インフルエンザ感染症）も令和2年以降、2年連続、日本国内で発生し、養鶏業界に多大な損害を与えています。

これまで日本の動物公園等でも発生しており、平成22年度（2010年度）には富山県、山口県、兵庫県でH5N1亜型により、コブハクチョウ、コクチョウが確定検査陽性となり、飼養していたハクチョウ類、カモ類400羽以上を殺処分しました。また、平成28年度（2016年度）には秋田県、愛知県、京都府、兵庫県でH5N6亜型により、コクチョウ、シロフクロウ、シジュウカラガン、マガモ等が確定検査陽性となり、飼養していたハクチョウ類、カモ類50羽以上を殺処分しました。

今後、動物公園内で疑い事例が発生した際に、慌てず迅速に対応するために環境省主催のHPAI発生を想定した訓練を開催したものです。

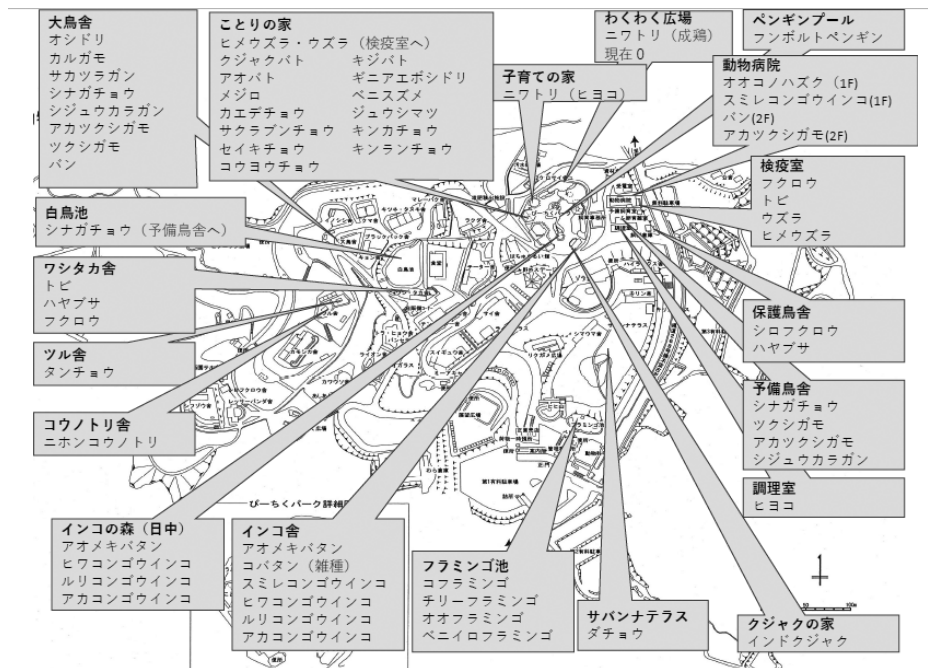
まず、令和2年12月8日にはweb講習会として、HPAIの基礎知識からこれまでの発生動物園の対応等について聴講しました。

令和3年1月21日には安佐動物公園の科学館ホールを会場に、中四国の動物園水族館関係者を対象としたシミュレーション訓練をリアル+webで開催しました。

主催者は環境省、事務局は自然環境研究センター。

プレイヤーとして実際に会場に参加したのは、安佐動物公園+協会職員12名、広島県・広島市関係5機関で、web参加は環境省関係6名、講師2名、オブザーバー4名、事務局4名でした。視聴のみの参加は全てweb参加で、中国4県の7自治体、四国3県の4自治体、中四国の動物園水族館22園館でした。

開催前準備として、事前に事務局である自然環境研究センターと当園で打合せをし、会場のレイアウトを



安佐動物公園の飼育鳥種と飼養場所

検討しました。当園の鳥類の飼養状況、飼育場所、飼育担当者とその業務の順序等を事務局に提示し、事務局主導で当園マニュアルと矛盾の無いように訓練シナリオを作成していきましました。なお、シナリオは担当職員のみしか知らされていません。

当初はプレイヤー全員が当園に集合して訓練実施の予定でしたが、COVID-19感染状況がひっ迫してきたため、急遽、広島県内の自治体のみ集合し、他機関はweb参加することとなりました。そのため、web開催のために必要な機材を事務局より送ってもらい、3台のPCは当園で準備し、開催前に事前のテストを行うという状態でした。

開催当日は、事務局がシナリオに沿ったスライド画面上で進行していき、「〇月〇日園内で死亡野鳥を発見」からイベントが始まりました。これらのイベントが発生する度に園内でどのように対応するか発言を求められます。さらに、インフル簡易検査陽性時、確定検査陽性時に、グループ①は園内対応を検討するグルー

プ、グループ②は対外的な対応を検討するグループに分かれて協議し、協議後に検討結果を発表するという形式で進められました。このシナリオでは、園内の鳥類にも感染が広がり、なかなか終息しないという困難な状況でした。

web参加者の音声が会場スピーカーから聞き取りにくい、会場の音声がマイクで拾いにくく、web参加者に協議の状況が伝わらない等の課題がありました。これらのハード面が改善されれば、web開催でも十分に訓練の様子を体感できると思われました。

今回、検討した訓練シナリオを受けて、発生時に臨時休園措置や感染拡大予防対策を検討しましたが、様々な部分でHPAIを念頭に入れた防疫措置の難しさを痛感しました。

特に、複数の鳥類担当者が担当の鳥舎に出入りする順序、鳥舎の網目の大きさなどの基本的な防疫対策、希少性の高い鳥類を守るための基本的な取り扱いについて検討が必要なのがわかり、大変貴重な講習会でした。



シミュレーション訓練の様子  
(グループ①は園内対応、グループ②は対外的な対応を検討)